老聲物

文化十

中村俊定文庫
文庫 18
769

国立公文書館
鴻巣村
春日山
善與寺

中村侯定文庫

常盤樹集序

梅柳爭春人知甚爲榮蟲聲菊索秋景幽也雖然不騷士墨客詠風抒詞仔細寫之態殷勤述之情別甚幽邈焉吏葉名同詠吟之爲德曷甚可已哉蓋詠吟之所区別不一也模今時之人情若謂之流行通古者謂之

不易就中流行若出自不易之斡旋
斡旋若即流行是也不易流行彼此
相照応為章今方撰四方詠吟之佳若
輯為冊帙書解説樹案彫乃無業
拙之謂歟及乞其序弁数言云
文化十年癸酉仲夏

但馬　竹田　武西屋識

京都帝国大学図書

子まうまる旅路よ世もひさろ
むらゝ雲のうまるとかくるる
書籍樹今を飾
いろひすれ扁引ろ松ろ梅ろ雪　嵩
汁　れるの芝の初めのもく嶼サ　己巳
詩奇よハ鳥帽子英り身ろ産れて　漢水
登日れひすると佳会ろ岳ふ　昌秋
れもろ自まつ国のあるかろ　あるふ
瓢まるとろん　拾ひ　る　緑荘

夏草や兵どもが夢の跡　芭蕉

五月雨の降り残してや光堂　芭蕉

このくれてそ又てる雲に気をかゝる　村方人

ひのくるまこのくれふるまゝ　紅葉

人声を黙々岩にあちつく　百英

雑々雑やら羅を松の　机山

夕鳥に咲てこたへぬ雲　きぬ女

ふこと〳〵みつるをりつ　ん女

野雲行々蒲鳥を岡きをる　星衣

下方

梅優

おも昔に色うたがしこゝ　春坡

白鳥に心とたゝくこゝ　雪洲

雲とうたれゝ山を立しむ　三夕

右一順

橋立陽子

橋立や雲業に中に浪の音　東都　東溟子

切せに咲れ来を紅の時行ぶ　良夫子

新田ゝまさを何雲梅に業　す炭子

郊外感懷

在但州生野
停雲舎　雅重

高雲はれわたるを待てあゆむ
野畑やすらゝ新ふるハ仙、　仙克
古山所々素はゝ咲る百合　百詣
夕月夜やすゝ音ゆ聞とゝ津千里、　象汀
名ほ中秋色ゝ原方の蓼を見、　花林女
蓼ゝぬのも秋の手柳ゝ新酒菜、　保泉
柳の河ゝ原を野ゝ原ゝ、　貞杖

旅中生野の書

吉野の花おもかげ世ゝ　茂良
人ゝ杉ゝ世ゝ立ゝ花の香　雅重
白魚ゝ網ゝ舟ゝ　良
伊勢ゝ蓮を家ゝ　定
羅ゝ刻ゝ日ゝ　良
四ゝ月ゝ人ゝ　定
野ゝ　良
ゝ　定
ゝ　良
ゝ　定

紅葉もかつ散りこのきく朝の霜焼
刷たる藻の花さもはなの枝　定
設けさせ給ふ菊の薬　京
撰集の名を後撰とかつたまふ　丶
なほ紅葉すなほ昔しの粥子後撰　定
こゝのつゝしの時ふる嚴ふる枝　京
無位のうちハ村の花　定
初の紅葉を立れす時の雪　京
情なくしくれかもとまつ　定

雨雲もかつ立つる程なまなかて　丶
船うゝ紅葉の戸の朝の雪　京
屋のそもやハう鞠ふく頁の夕暮　定
情の花ハ散ちさこの時さ　京
時なくしも思ひたすゝも今夕夕　定
紅勝の源ゝ雲ちれ　京
枝ばかりの茅ちさ之事ん　丶
露ちてまもなくこの秋のうち　定
八部の時を後の猿田彦　京

二てさ初秋はさめれ夕月　主
ちらてて紫陽花遠おり　宮
菜はそらく小を鄉ふ樵柴　主
なるく流を狂奇とせに笑て
はは百てを八　狐み　蛾入を　宮
ゆくくそらはゆるも小一月　主
りくふこてる垂く初夏は　宮
義るもんくふさくく蛍は松　主
うはも表もを見ぐをはの紫　宮

山京の脇句

祖生埜

春ゆくく秋同しをさを除てを　梅父
初雪は中今鶴は梅白ふ、　如柳
初紅や垂柳一ツ郷ナよなる、　仙賀
昼ろ日くをはの土を言ふ、　雅好
を松や芋くく寝ても掃は戸、　因垂
今鶏をのをくれをくく春は猫、　如湖
学くを名を咲ハ梅はれと義茶、　泉眠
菜みを水や吉の稚のをを斗　況、　仆亭

極月や神響渡ひの声の静　浅里（ヲ）

百そ〳〵夜ハ明ケ雪ぞ降ル　、　嘯雪

訪ふまつよ深もおさ野ぶ〳〵　、　世徳

脇の故なくとかえ〳〵八幡の家苔こ糸八又

茅場ふる雪〳〵三迫ゆく蒜の〳〵　、　亜弧

借〳〵ぞ〳〵ふ本馬や祇園の糸　、　乃美

石蔵ゆや素こ寸れれのれるよ　、　秋守

梅ひぶひ〳〵つ又年〳〵ぞ日帝〳〵よ（カヒ）　有雅

綿素も雪ゆ孤ひ〳〵ぞ　、　浦〳〵

六月や思ふ人こ〳〵ぞよ　信濃ノ倉　帛枝

梶月葱ひ青蘭を引　〳〵　流　玄代　亞物

京と〳〵し日よ〳〵〳〵ふ梅素〳〵　上田　如毛

〳〵ひ素ひ〳〵ぞ素〳〵ひ〳〵〳〵　、　雲常

訪の野ハふ二〳〵や〳〵ん〳〵の蓑　金井　路雄

畑おり〳〵新いふや梅〳〵めし　臼田　耕森

湖く青田の中　〳〵名一〳〵〳〵　シナノ　何秋

駒〳〵〳〵自〳〵つ〳〵蚊性ひ文　、　素楽

木枯の〳〵川風〳〵の紙　上長　鹿太

生壁の春を

蒲団叶ハ日和くさしれのゆく　文眠
紙ぶくろまきみたくこの春　柿父
供の尻も解け酒よこられて　鷺白
会釈の酒をニ十なりたる　歩丈
初春をめくるくかし四十雀　あさる
夏みを紙を夜をかぶりて　花林女
ふのさよの酒をとまる相撲云　夏雲
今宵みな仕事ぶりみるよあふ　仙賀

雪ちりて横ぶり冴ゆる日ぬくく　雅好
ちんみも咲くまでやめをやむ　眠
ちくハ伝毎の夫見にかしおまり　父
ふるさけんたみ蓮さかまし　白
柿の赤みくるる猫を抱て寒　丈
鶏かくれく暮このの月　雲
寒ゆ角ゆ和れのれを立ぬの　東湖
決めみ寒くく癒の怖し　鷺山
高らしよ高みの春のまこの　竹亭

春の大空にて俳諧なるべき
考りと行部めのさる椿太夫　島賀
役者にてしばらくかゝりて居る
見の雲ハ杜吉やう時よりの事　好林
夢引しゝ跡のたゝくさ　保泉
世せ申一筋思ひ捨ても捨ん　雨鶯
紀ゝ利分て咲そめたるさ　湖眠
そのゝ名ゝ吉と言の杜ひしゝ
ひ稀ゝ物ゝ世ゝ芝ちゝりふ　泰山

生駒の花浄瑠璃世話
ゝ吉なる言の松竹　白亭
場世も書れゝ名ゝ月のゝ書　如柳
ゝ吉ゝ丁の恋ゝ　外相女
ゝゝ不世捨ひ世ゝ吉ゝ　山
毎ゝ言ゝ味ゝ　阿年
神柳のゝ世ゝ　島
ゝさハゝゝ　柳
俄新ゝ言葉のゝ吉ゝ世ゝ　雅吉

蕎を傳て来しうき旅　眠

園子の一歩の地行

大のさい来て森てれ蕎ぶ　八十五　竹也

冬ゆ消き寒よ和らく

冬ゆ消やおし蕎麦れ泌　生堂　蕎六

蕎年てきて来くる籠ぶ、蕎山

雑夜のくや義ゆう宿の窮、蕎重

此此風変たくと孰と惟くす、蕎堂

名月や文くく蕎もゆるも有、東渡

蕎ゆ二つ〳〵　此さのるる〳〵、文紀

寒さのうて此ともくく風雲此蕎、ちか女

尾芯蕎く掘ハゆつく孤此　歩丈

神茅の渡ゆもこの蕎渡ゆ　祥禾（手傍）

咲さくも皆赤さくてちのうたさ流ぶ　阪素

泡れようるや立みれのめ　雙阜（ブニコ）

ゆかくよ示ハかりくぬて多ぶ　耳古（アキ）

芹蕎るも今刻ゆ来ほし、　鳥老

日すくるや風径うて桜　白ふ（俳中笑）　歩山

十月の日にるかくて渡寒る　琴別（サツて）

稚名村に春も早苗の赤楮（ハリて）玉屑
紅葉八重に清しきさくらめぐ、　以南
枕草子の文くさくさも神に集、　鶴樹
夕息よ月の梅ゝ雪晃きるる、　文雅
十六夜に雪冥もなし菱葵、　秀葉
月清し祇園きさ雲に雅　所、　玉笠
海之ゝれゝ小ゝ東く通りゝく、（神名）春園
桜ちるゝを踊る入日ゝ、　里角
雪に白祇園ゝ山ゝゝ高ゝ、　鶴栖

抱きゝ重所ゝ雲山ゝ、　五草
春に白日数ゝ山ゝ形也ゝ月、　万紀
怨ゝ小雪に形也ゝ月、　万紀
楮ゝ也今も神代の姿ふ（但七楚）尚葉
水ゝの水を彩れゝ家ゝ、　百道
まつに桜咲ゝも松下梅ゝ雪、　三松
糸菊の働く係ゝ芝ゝ、　全
人のゝ雪ゝ月ゝ月ゝ芝　ゝ、　外猶女
杉姫のもちれゝ雪ゝ月ゝ、　平洲

さこのもとに夜八重の花ざくら
春ぬれもぬれしらぬ河原汁　横尺寸法　文眠
西北堂人北東ゆきさきはるもなし、　東湖
垣御しまうさ堂ざくらなりけり、　吉道
七日也堂もものすす吉佛、　里陳
あるとおもせけるれし
あるもひも物を物北系、小女さく
ひすてる山新しかるふすす、　ゆきを
　狩濤　夜泊
雪ぬめ夜るれさはるや老大杉　ムツ　ひ二

さしめくらと書る則ふさそれうふ　ニ三三　喜年
新ふる苗ふふ　ふふや杜なし、　石河
ふをはれふふ　ふふふと第れ白、　左琴
いろいろ北春自ふふ　ふふ喜北白、
ゐ作白の琴波鳴さ　ふ　今は　水端
小波波ゐ作北白　北作　柏堂
山庭のまれすへ春ふり　鳥　ぶ、　虫有
うふふすふ波ふ北れつれ　ふれ　宅路
田嵐の白波ひふふ　香の　風、　如髮

ほとゝぎすなくゝ涼みかな　但州竹田　西淮
のきつゞくもさしく茂り、　可玉
鵜くの紀伊よしかきつばた、　静好
雨の日ハそれぞ世はりの葉笋、　嗅奈
葉櫻やうとくもそん小雨、　風篁
虫ふくしやくや香の白ほたん、　宗平
青風や草の中より月の影、　梅見
ちるものは茂りやくし蓮の花、　梅汀
おくくぞ小雨の夜ふけのかな、　寄染

七草の夜より遠く嫁かの星来、　芳仙
うみ花やよりく月の景色も、　桃丸
初秋や十日の夜ハ涼しかりけり、　呂蕉
夕虹の斜にすゞやま菅笠、　雨柳
此御人ともしのべ通夜
一あくさにそよその世郭公　但出石　风香
年さ世の花やさくお河原荻、　菊庵
北野梅の城将兄の帰路を芝ろ
ちる色も先まづ梅の苍かな、　埃雅

件田新蔵

来る人々招き給ひ給ふ　信雲
柳ところもの白ふ　半　蔦　西屋
夕霧山ふと所多所ふる　照阿
夜ふけ吟じて奇を語し　可玉
件稲といまさ姫めの新たれや　乃柳
このさとしく山　鳥　角　茂宮
秋こいさと衣ふ濡れ肌をふ　件蔵
清美焼ふとふる勢もふし　数乃

うさとハ新れ流れ上野ふ　柳里
拾ふふすふる新れ切りれ　柳汁
住吉の浦ふ夜明の雲れ裏　屋
京津の滝のもる岩壁　樹　阿
思ひやる云せ云ふ　魂　柔　好
ほろふと高れ件ふこほふし　柳
神ノれ書欲れ首尾をのれ　汁
いたく云ふ　玉蔵　れ　給　素
ふと云ふとハ切ふ云れ良　玉

神垣をくぶまれ桜人　王

桜をゑくく傘さしやれの為に一物

糸ますらをれら浮世れ僊偶師、東大

呼ぶやうるるるるる勢田れ橋、春谷

橋をやををいさらふ雪れ中、るれ自明

忍しれ蜂のをくり杜母ぐ、中ふ桜

京居居体れ此れもれし、宿此

二三日馬の跡くく杜ぶぐ、今故

京山ハもれよををれ雪れ中自交

お原橋今よ桜ふ

夜れ京京を祝しさ小神ふ　但生の義如

傍色切片をら京し春れ山、仙利

らさ山やのをさるされ春、古角

うをくく夢のよをく春のれ、子丈

をつのさ京やは春れ春　延、ゐ仙

京をさのふれ俗らをれ春、西祥

遠をををくを人の春の山、松堂

夕鳥やる引のをら罪　盥、孤井

人間しられぬ櫂の雫かな　但馬田山　波

こゝをさす夕日のくもに陸ゝ、　爰舟

行くゝてしらぬ笠れ日れば、　聽馬

れるのは一枝ゝ移れるを、　苔丸

雪しさや所ゝ蔦紅葉の風、　雲字

夜学し初を月前ゝおりを、　三澤

ゝるゝ為に蓮れ盛て　海井ぐ、　柿庵

釜たゝるゝも源ゝさを、　玉木　菊司

こゝゝ和ゝ紙ゝ夕日さし、　夏柳

堅嵐の日ゝ向ゝれの色　ミカハ　卓池

芒堅れ来ゝ行ゝれ自、　東鳴

田や畑ゝ秋れ舎ぐ、　其由

月の空や雲とゝゝ一ツ、　羽居

爲の果ゝくさゝの山路ぐ、　素葉

芒とゝ名もゝのしを河原弱、　秋峯

植刈ゝ蕎麦伸すれ田ぐ　たをゝ江　吐風

移さくるれとゝや百合の花、　木甫

ちるも蛍しるゝ知るのゝ月、　路雀

呉とはられのゝ渡り夕立し　但馬生野　戸外

かなみ込ら東山里ハ雲よりも、　百宜

留守都ハ胡下秀す幕ゞ、　秀子

好ましても任子正しさ芝ゞ、　素枝

手水ゆくさハ山風におとりし、　素寄

雨雲ハ晴て粟津の山風ゞ、　春山

遠ざけてすりつく桜ハ又すゞし、　荷丹

何為にて捻題

西山をくるもとかさし清さのみ子、　雨静

但馬生野にて初て蒲庵

めしよ逢しけか懐

涼しさハ身に余るくしのふ帥　攝赤穂　僧　九云

夕立や駿馬へのほり人を追　ハリマ　可誂

雲風ハ当たり幸ハ古用二丁　姫路　周泉

涼の世の月雲東二新　高砂　素帥

大原女のうちも来ずれの鐘、　左詩

恨年夏の繁波にし達ぬる　イナバ　大無

すみに気の粉ふ冬し打起しぞ　イヨ　操堂

面影をうつす山　城　金元　丹八大山　武陵

伊勢　子子

鈴も咎おほえぬ子梅が花、椿部

万代を祈んぐほぐ紫ぐ、杜鵑

りめうの島をなつかしむ　猿、佐治　兎羊

姫牛の一ぞくを　宿りうる、ミウチ　房言

京引つ又牛　寂しの流れ、吉新

姫鹿は猶くあも又ふり　梅ぐ、魚屑

を拭　やれ元しをかれ　里、其山

三笠山草の暑さと　雨うるる、　呑量

青梅やあれかとと　賣ぬり、　車九

十日もやたく日ふれ　ツ子号　成美

ひ芝　ぬるの　ふれし、　九升

まうやかく　ぬく　峰のを、　巣丸

ゆやうやまく　ぬて　赤しを　者、　護如

脊　ぬ　屋　紅色　ぬ　ぬを　丹八笠山　五柳

陸　ぬ　代　ぬ　ふも　草まう、　巣杜

まう　の　屋　ぬ　ぬ　加茂　町、　滄海

まむ柄に唐ふ覚来山家かな　(丹六上抹) 古声狸
鶯のふくれて御声かな、　荃来
海苔まるや外ても鳴さかのぼる、　不駒
二浮世折角吹て流れ行く、　米古
梅一本香りて金山ぞかし、　危言
如月みるや手ひろふ小鍋かな、　清竹
寒みの夜は朝の来かな、　有推
たくひなき声や唐皆の家淋し、　支石
春門もなしに来るり皇れ月、　可耕

京の鳥来りのこと鳴ぬけり、　可也
水の音所くや文は月　(丹六) 斎谷
立春は蘇来り餘し春、　琴谷
梅の花二すちに咲ける花、　眠樵
門の戸に山の信寺雲仕かな、　(三ガ) 有莫
ましのこや御あふ三井の鐘の鳴、　叟馬
鶯の鳴初めのころ二日、　南柯
春寒し蛙し啼え雛、　(梶原) 素涯
松の海をあまたのへて雲は晴、　六合

但馬白ゝの玉山の走

菖蒲湯の今年も同し心かな　泰山

一日朝のみしかゝさ動く　茂言

小綠賣笑て見しいそのれく　山

ちくしぬの人すり本も見　言

我賤とてまき衣を絹るみてある　山

垣の瓢の種うあり　おもす　言

本家はさんらる綿ノ三井の緒　山

劉深は勝てすゝる常ゝのき　言

ゆくゝのさ芋汁の味も忘れ闇　山

うこさまやさしきむしろの上　言

ほんみし孫か持て来る小燒灯　山

あまり口かしう白ふ猿の声　言

會ふも不強の親の何うやみし　山

川を陽て　舊　あるさり　言

西ゑし十里行りは樣よ知く　山

本社うつしてまつは其にたり　言

又年の床風よそめし菜の山　山

京　解

山　雲

京　鮫

山　鯛

京　鰹

山　鮭

京　一面

時くしん侍元の名糸あるく　京

まさ味もさきさ和雪れ切口　山

こしからの暑者もあるけの元　京

雪を天てりり小物魚井戸　山

ふり兵の侍てし後さ神殺　京

元も和くのさきし藏之　山

神りの義ふるを任雪く　京

たのしさものハ去の　桂　山

この毛もさく兵てやむの岐　京

やまとなでしこ新の山みち　芳山

重陽　里郷るの日ぐ　但号生の　如拾

ちの年や百のかんのなかなり、　平茗

分入くに案ぶれ多しむの山、　吐山領

秋ぞれいたちくもきりとハ生薄、　菊二

ちる時き重ようふりさらぐ、　雅雲

房ちさ三毎るとれの響、　一貫

ここもよ求めさしりタヒぐ、　孤雲

経夜を寺岩ゝりを流うら　但号公兼　曳象

峰こゝ山峰ハちいさゝ　郭公、　丁象

ひとろこれ新の立と垂よりを、　泰山

大本下賀申、の立ぐ、沖猪、　司仙

星ちさ日や初ひ吹ゝ雲の山、　蕉舟

物答りゝ行ゝと蒼れ　山の雲、　暮兮

情陰や夕日　新ゝ立ゝゆく、　古舟

たくなゝめ雲ゝ浦ゝ、　英方

めゝ花さの小隅ゝ石く田植ぐ、　みつ女

君のぬしと中外不ふれ月　但馬　素峪

信を之をいもまちひす

毎年くるたの咄を

搗き中毎日延くちみうう、　吐月

搗くくく押ひとりと叢雲集、

ナ六夜やれを不ふ搗の人　網場　芭雷

打のきもたらめ絵し　元文、　竺仙

夕の花又森ふ芳、市や笠ハ唐し、　江京　百朋

人なくて連ひきあれ女奇を　十二八　月居

搗くるもくやかれくれ仏れ　乾り郷　東坊

義の夏ハ沖も四ふ月　十二八　茅亮

又ふるれて流れて何やもれ海、　長高

くくたる苔も咲ふ居の月、　琴人

夕乾や石のたやも居の れ、　奇渕

まれや拾てもこ寺、居の灯、　百和

又ふるもも又めふもちる横ぶ、　三湖人

苔墨墨の石せすさ　陸うれ、　東雨

又ふりれ沈くくを巻まさ、　素雷

冬ごもり仏夜ごとにかまくら早し　但馬ノ国田　土芳

雲原おくく霞くれく、ふ深

あんこうせうこうこうれくこの月、芝　龍堆

山さくや梅せくこの夕の月を接く、土田　九皐

恙なくくふも多くくタ涼く、涼つ

り雲の新やこの山月せ山、外立

ちるはとうくせるくせくなるせを、仲海

初秋や一つ高くむこうくし　矢名流　巽竹

正月の名くの行くくるを見る大松　サカミ　葛三

夜花

二こ東所本　樊りくおせ　宿　ヒタチ山　九

月秋なるうの月の馬車、儲史

たれかきもつるみもひこ見せ月、一尼

ぜの戸の所之やすさ　稜　ぐく、義京　雨之萩

世の中のりれよ坂巻のうこ石山り郎　芭竹

山寺の雲ままさこうる　稜、うる、幽嘯

郎のもに巻こ　ヒタチ　義音

なるまと人をもまさ　梅ぐ、　木公

[illegible]
[illegible]
一人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

横長坊系　河年
海月
二柳
山美
扶牛
[illegible]行
一の遊
中世　意東
貴　一貫

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

讃列　立葉
サ行　木海
ムコ　相栖
芝の家
北田　呉尤
イタミ　[illegible]
浪花　升仁
荷涼

草れてとをよりかくれて三森ぐ　ヲハリ　波路
のみのあるもつこのうたあるる　柳、　杜光
月夜ゆも寄てもそそ寸萩の声、　風雲
曙やふりくてみくく雪れ月、　九江
ちちくくはちるきりやはれ雪、　弓氣
秋うせやあるとちらさえるあれ地、　四明
人の来くく来ともいくたれ又ぐ、　馬意
日よりふかさらかしらう寒生活荒、　杜蘇
岩白の月よ掃くく寒ちの旅、　竹有

岩山の芝と又くんとお沙くりる夜ハ
むくく庵よ紙をすけふ
けこの夜ちちうくさく猛深れ雪、　月庵
庵ちくや人よかせちる行火　著、　岩雪
焙炉鬼ハ南むきしし花すくれ、　平高
よ雪ちくく日よ土　鬼　物千　鬼、　か海
涼くさハ仏ちくく梅ち寄ぐ、　銭双
点ちちち猫の新さす庇ぐく、　大巣
誉の夜や鼠の紙のえをのさつく、　呂川

為盲原三吟

接ぬ柴やゝ朝一杯くみぬと　本吟
かぼそき戸口に影さす月　むら
猿引れを河く俺く　定雅
栗ぬ帯を賭よたゝけ　吟
嗅さくふて猪のゝぬ巡る業し　ら
泥黄の色に咲しを　雅
ゝ仕ぬ仕ぬ仕ぬのさうき　吟
音に鳴ぬ　泥世　川泊　ら

鉄鍋ぬ大次弁ゝを笑ふ　雅
却の茶垣に車かさ　入　吟
大切ぬ立たれたることく　ら
ぬひと消えられも言田　雅
汗就の立地もられたる初月夜　吟
吟すゝ風ゝゝうゝうゝさもぬ　ら
よゝ紀行に京を宿て西院泉　雅
只代さに寺ひきゝ寺　乙　吟
雲ゝも大きさ花に寂すし　ら

春の夜しつかさ鮎を賣　雅

湖やすゞしさ起て満月の色分し　丹后田辺 斎山

葉桜の上にエ其八なる星㒵、　如阜

印の茶や日にも月にもなるとよ哉、　木許

はしりを炭かゝせたり桔槹、　星戸

回の秋のゆふぐれ郭公、　斎団

一声の名残を告て鮒鮓、　無言

かすみ袖は春しきえし垣の梅子、　李之

埜梅の鶯仕こなして秋の月、　哥流

但馬生埜銀山にて

郭公生野の里を鳴よんだる、　生翁

月の梅あやいかなる花をみん、　流れ

志ら雨や傘さしかけし世の中、　綿糸

紅葉は見やさんとこのわかれ、　可山

灯をりしよ見いたる中を鹿の声、　素涼

山の秋もくまで清れじ、　雪堂

雪帯あをゑれて来さく初蛍、　木鳴

石菖やそらぬ分鳥ぬれてくく　大和　圭〻
る紙伊ためよくさき　古氣　ぐ〻、　爲永
り蓍やセそよいそよあ〻　咲カハナ　古岩
大山の陰よきの也ふむ〻き菓ぐ、　来紀
梅のむこほれて積を足り〻　ナラ　左禽
朝月の夏〻ことをあワのくぐ、　後雪
さ〻〻や鹿の鳥あり　柘　蘆サカイ　白水
夏ふ〻日ふ〻　成岩子　芝ぐ、　葛丈
ふ〻くるあ〻て行　雪氣ぐ　イセ　椿堂

夜ふたむ世張ふ〻梅丸む、　立高
推丸木のけるるふり人もなる、　四日市　の就
たのも〻や鎌陸られ〻梅のむ　イセ　鳥朱
蓍の山、夜ふ丸神ふ〻ふ〻ふ〻ふ　ミナノ　蕉雨
ま丸を大〻ふ俗やふ色のう〻ち、　冥改
奴を禁行〻のや行ふまつまれ京　大ウ　申高
宿の丸丸面ふ〻れふ〻れふ〻ふ〻　石鹿
丸ふ〻ふ〻ふのあ水ふ梅ふ〻、　朱友
丸ふ〻本竹ふ〻ふ〻五月　馬、　千影

移の角こぼれくる夜をつくす　大津　宇洋

月うすく白ふ三井寺の美芽、　古猿

草の庵は舟うたはおけくまもれ　走井　鳥頂

小魚ゆも寒う移りくはれむ　カタヘ　文光

寒風のゆふ庵ハ月もかうりう　西湖　千嶺

梅干干さうり付うくさの峰　造酒　栢みな

人の来ぬうちは切あす寒ゝ、　あうと

ふりくすは待ちもかうひすや、　表雄

懐は小袖もおすあの月、　昌之　士明

初午や金棒こかすす小石坂　城南　下方

くわうも大きさよ地の子、　この雪

寒さよ地の子、　百笑

雨ふやく菜ふれ川、　牛山

立の月ふも本陣、　菜京

紫をれくゆう陸奥　ヨト　本竹

ひやうをを牛馬　桔尾菜、　文雪

寒雨の鶴さうる門の蓼　伏見　鶯ゆ

山陰や秋ふ古杉菜、　草阜

七夕や青とかちよふ草はの色　洛　芳圃
色の後斗よなきしまさく　雲雅
朝貞の面目もたゝ稚りちて　梅價
墻柳て義の初色ふさ髪　三子舞
日和くゝ切て梅又ぬ路もたゝ　菊居
まゝ移とゝふ日うゝ来て春のみち　花明
待の〇〇素と立ますや細りの　十世
大とゝ世たゝ笑〇〇立れ山　布雪
七月や知て本り歩れ色　瓦全

本屋町偶吾

かゝ川のれハ切〇〇色　あふ
繁盛よ先笑〇〇切〇〇色　芦洲
大うゝハ一日つや笑れ　昌紅
月ゝ〇〇〇〇ちて牛柔　月を
油たゝぬ切つれ〇〇切色　金吹
会点〇てすゝる本れ乃や青つゝ色　十山
うつゝのゝと芋ふていたゝ芋れ色　机山
塩鬼もすれハ初来く　初地　漢れ

[illegible]日を[illegible]も之たゞ春れ山　定雅
[illegible]る程百軍れ上るの[illegible]　杉波
一ゆを二[illegible]ゝ[illegible]ゝ　友子
[illegible]ゝ[illegible]れ[illegible]　専雅
鶯[illegible]一日[illegible]れ[illegible]ゞ　都
鄭竹植日
[illegible]ゝや竹植ゝ[illegible]れ右[illegible]　お年
竹植ゝ一戸[illegible]ゞ、　[illegible]安
竹植ゝ夜ゝ[illegible]れ[illegible]　星[illegible]

[illegible]れ花と[illegible]ありて
[illegible]ゝ[illegible]れ[illegible]ゞ　[illegible]
[illegible]ゝ夜の[illegible]ゝ[illegible]れ戸　[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]れ人も[illegible]れの[illegible]　[illegible]
[illegible]ゝや[illegible]貢の外の[illegible]れ　方仁
夜小[illegible]れの通し　花　[illegible]　琴把
[illegible]れ戸[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]　三夜
白[illegible]や[illegible]ゝ[illegible]れの[illegible]　李[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]れ[illegible]れ[illegible]　春城

[illegible]ふくさ　郡山藩　中川社　素雪

[illegible]　市雄

[illegible]の水　言雪

[illegible]の家ゆり　雪口

[illegible]人[illegible]

[illegible]

[illegible]　茂言

[illegible]

[illegible]　月　地

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ISSEIDO
東京 神田

[illegible]

[illegible]八日　　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

追加

舟中少[illegible]

風涼し清流に[illegible]夜比舟　但ニ方　杭居

我右や[illegible]も[illegible]　兵庫　九梁

御文通取次所

京高丸下ル三軒目　書肆

勝田長兵

1